

## 研究結果報告書

【研究のテーマ】映画『一八九五』に表象された日本軍——森鷗外像を中心に

【研究結果】

映画『一八九五』は、二〇〇八年に公開された台湾の大衆映画であり、旧日本軍に激しく抵抗する台湾の客家人たちの有り様を描いている。映画の語り手は征討軍に参加した鷗外である。だが、現実の彼は、軍人かつ文学者として、この戦争をどう見ていたのだろうか。また、鷗外をはじめとする日本軍は『一八九五』においてどのように表現されているのだろうか。そこで本研究は、映画に表象されている鷗外像、及び戦争に対する鷗外の考え方などを深く追究した。

その結果、台湾についての鷗外の観察や理解の仕方は、映画では非常に肯定的で友好的なものとして描き出されていることが明らかになった。台湾映画『一八九五』が、鷗外の優しい眼差し、能久親王の平和共存の願いなどのような姿勢のもとに表現したのは、旧日本軍にありえたかもしれなかった「平和」な姿を想像したからであろう。『一八九五』でのこうした想像は、この事件に新たな解釈を提供したと言える。

以上の研究結果が、日本の学術誌『鷗外』93号（森鷗外記念会刊行、今年度7月刊）に論文として発表されることが決定した。

### 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

林淑丹「映画『一八九五』に表象された鷗外像」（森鷗外記念会『鷗外』93号、2013年7月刊行予定）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）